

参議院再選挙の結果について

2021年4月26日 日本共産党広島県常任委員会

25日投開票の参院広島選挙区再選挙は、野党統一候補の宮口治子氏が37万860票（得票率48.36%）を獲得し、自民党候補に3万3936票差をつけて勝利しました。“保守王国”と言われる広島で、自民党の金権腐敗政治に広島県民が「ノー」の審判を下した画期的な勝利です。ご支持をお寄せいただいた有権者のみなさん、奮闘された県民のみなさん、支持者、後援会員、党員のみなさんに心からお礼を申し上げます。

広島、長野、北海道2区の3つの国政選挙で、いずれも野党統一候補が勝利したことは、菅政権の無為・無策の新型コロナ対策や金権腐敗、政治の私物化に対する国民の厳しい審判となりました。

広島の再選挙で、私たちは、河井買収事件は自民党の金権腐敗事件だと指摘して、何の反省もない自民党本部、自民党県連、カネを受け取った自民党議員の責任を追及してきました。選挙中に配布したビラでは「市民と野党の統一、女性・新人の勝利で自民党の金権腐敗政治を広島から一掃しましょう」と訴えました。ビラは共感を広げ、自民党候補は選挙終盤、弁明に躍起になりました。自民党、公明党は物量作戦で組織戦を展開しましたが、県民の心をとらえることはできませんでした。河井事件の真相究明、被買収議員の責任をさらに求めていきます。

再選挙は、核兵器禁止条約が発効して最初の国政選挙でした。世界で唯一の戦争被爆国でありながら、条約に反対する自民党・公明党の菅政権に、県民の力強い意思を示そうと呼びかけました。選挙結果は、そのメッセージを世界に発信することができたと喜んでいきます。

再選挙は、私たちにとって最初の野党共闘の選挙でした。市民連合と宮口候補が政策協定を結び、同じ内容の協定を市民連合と結んで、筋の通る形で市民と野党の統一候補が実現しました。選挙の結果は、市民と野党の共闘が大きな力を発揮することを実証しました。

今年中に総選挙があります。日本共産党は、市民と野党の共闘をさらに前進させ、この総選挙で菅政権を倒して政権交代を実現し、比例代表選挙で大平よしのぶ前衆院議員の議席奪還を必ず実現する、そのために全力をつくします。

選挙戦を通じて、党の自力をもっと、もっと大きくする必要性を痛感しました。党としての責任をはたすためにいっそう努力します。